

美唄市地域公共交通活性化協議会 平成22年3月24日設置



概要

美唄市は、少子高齢化や自家用車の普及等によりバス利用者が年々減少し、交通事業者はいずれも厳しい経営状況下に置かれており、現状改善には交通空白地域の解消をはじめとした、利用者の利便性を考慮した効率的な交通体系の確立が急務となっている。このため、利用者ニーズにあったバス路線の再編、交通空白地域・過疎高齢化地域における乗合タクシー導入など、地域に根づく公共交通体系の構築に向けた調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(茶志内駅、美唄駅、光珠内駅、峰延駅)
- ・北海道中央バス(市内経由1路線、都市間1路線)
- ・美唄自動車学校(市内2路線)
- ・スクールバス(11路線(うち8路線は市民混乗))
- ・市民バス(東線、西線(スクールバス混乗含))

地域公共交通の課題

- ・高齢者等の生活交通の確保
- ・過疎高齢化地域、交通空白地域の存在
- ・マイカーへの依存度が高く、市民バス等の利用が低調
- ・ニーズにあった市民バス、路線バスの運行及び乗継効率化

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)

策定する地域公共交通総合連携計画の構想(予定)

- ・主要病院や大型商業施設等を経由するバス路線の再編
- ・市民バスと路線バスとの接続改善
- ・交通空白地域、過疎高齢化地域への乗合タクシー等導入



国土地理院発行20万分の1地勢図より

美唄市地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

主な調査の実施内容

協議会開催状況

5回開催

分科会等開催状況

-

開催状況は平成22年度中のもの(開催予定を含む)

現況交通実態調査

・各種統計資料により世帯数、人口、年齢等の調査 (H22.10月～11月)及び市民バス東線、(株)美唄自動車学校が運行する南美唄線利用者を対象に、利用人数、利用目的、利用頻度の把握を目的とした乗降調査を実施 (H22.10.21、12.15)

利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)

・市内24地区から無作為に抽出した1,058世帯を対象に、公共交通機関の利用状況や要望等の市民アンケート調査を実施 (H22.10.20 回収率約32%)

・タクシー利用者を対象に、利用時間帯、乗降場所、料金、利用人数等の把握を目的とした調査を実施 (H22.10.18～10.24)

予定している主な連携計画の内容

市内路線バスの再編(実施主体:美唄市、実施時期:H23～)

・利便性向上、運行効率化を図るため、市民バス東線を循環方式による運行や一部路線を再編(H24の本格運行に向け、H23に実証運行を実施)

乗合タクシーの運行(実施主体:(株)美唄自動車学校、昭和ハイヤー(株)、美唄交通(株)、実施時期:H23～)

・公共交通空白地域の解消をするため、市民の生活交通に適したデマンド方式による乗合タクシーを導入(H24の本格運行に向け、H23に実証運行を実施)

・JR美唄駅から各観光施設間を連絡する観光乗合タクシーを導入(H25に実証運行を実施)

無料送迎バスとの一元化(実施主体:美唄市、(株)アンビックス、美唄市農業協同組合、協同組合コアびばい等、実施時期:H23～)

・ピパの湯ゆ～りん館、JA美唄及びコアビバイの温泉送迎バス、買物バスの無料送迎バスと連携し、市内路線バスとの一元化を図る

利用促進に向けた取組の実施(実施主体:美唄市、実施時期:H23～)

・利用促進パンフレット、チラシによる情報提供

自己評価のポイント

乗降調査、市民アンケート調査、タクシー利用者調査等により必要な調査を行うとともに、法定協議会において合意形成を図っている。

二次評価の方向

次に掲げる点についてアドバイスする。

・市内路線バスの再編や乗合タクシーの導入に当たっては、既存の路線バスとの役割分担や乗継ぎ円滑化、市内全体の交通体系のあり方にも留意しつつ、引き続き具体的なサービス内容について検討されたい。